

5 さいごに

本工事では、当初より厳しい工程管理や、他工区との工程調整、水再生センター事業の円滑な運営確保が求められ、関係者との情報共有が課題になっていた。また、日々の工程調整や詳細施工計画立案、作業手順の確立は、日々変化する作業エリアの状況を的確に把握しておこなう必要があった。

これらの課題に対応するため、当作業所では図面データのBIM/CIM化とともに、工事エリアの模型を1/100スケールで自主製作した【写-10】。

模型は工事打合わせ、新規入場者教育、手順周知会等で活用し、関係者の理解促進と施工管理業務の効率化に寄与した。

また、模型は若手からベテランまでの技術職員・事務職員が協働して自作した。模型製作を通じて、所内コミュニケーションが自然に増え、所員間の交流が深まったと感じている【写-11】。今後予定されている現場見学会でも模型展示を実施し、学生、近隣住民の理解促進に活用したい。

本書に記載した整備の効果として、スロープ整備により大型機械の配置および資機材の搬出入が効率化され、一定の成果を得た。さらに、中央栈橋の整備により天井クレーンを有効活用でき、揚重作業の効率化が実現した。加えて、掘削作業の効率化、資材運搬作業環境の改善も確認している。今後、躯体構築が本格化するが、整備した設備を継続的に活用し、安全で品質の高い工事の推進を図る。



【写-10】作業所職員が製作した模型



【写-11】模型を用いた打ち合わせ状況

見学会 レポート

芝浦水再生センター中央系水処理施設再構築その6工事 現場見学会を行いました

■ 日 時：2025年10月22日(水)

■ 見学時間：14:00～16:00

■ 参加者：17名

■ 協力会社：大成建設株式会社

去る10月22日、芝浦水再生センター中央系水処理施設再構築の現場にて東京土木施工管理技士会主催の見学会が行われた。

冒頭、大成建設(株)・桑本所長より工事概要についての事前説明があり、当センターには1931年に稼働開始した歴史があることなど、プロジェクトの経緯を解説していただいた。

現場では、底版構築中の地下ヤードにご案内いただき、覆蓋直下の巨大空間を目の当たりにしたほか、既設補強鉄骨を転用したという天井クレーンも見学することができた。見学後の質疑応答では、栈橋から遠い箇所へのコンクリート打設の方法やその配合、周囲の構造物に配慮した点などについての質問があり、参加者は大規模現場での施工の知見を得た様子だった。

